

3 水田の活用状況

～経営所得安定対策の実施～

国は、平成30年産以降は、行政による米の生産数量目標の配分を廃止し、生産者や集荷団体等が中心となって需要に応じた米生産に取り組むこととした。

令和2年度の転作作物作付等面積は4万2,468haであった(図1)。作物別では、備蓄米が作付面積の約19%を占めて最も多く、次いで飼料作物、飼料用米、大豆、野菜、そば、加工用米、小麦、地力増進作物の順となった(図2)。

図1 転作作物作付等面積の推移(態様別)

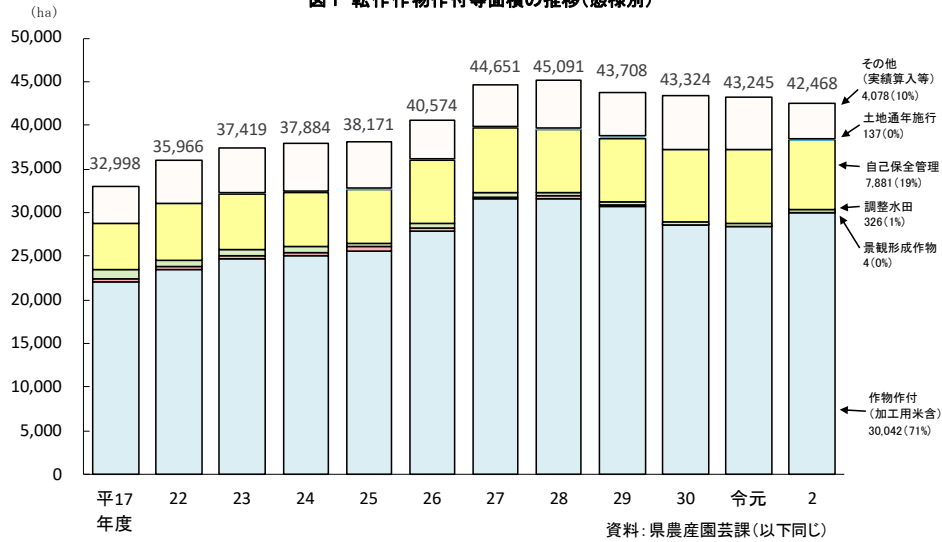


図2 転作作物作付面積の推移

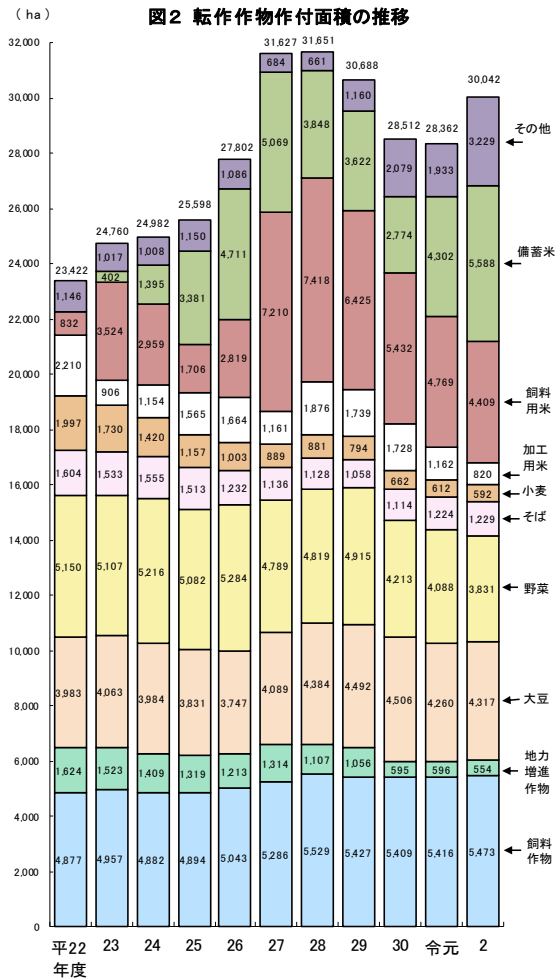


図3 主な転作野菜の作付面積の推移

